

岩木山を考える



凍える白狐沢両岸稜線

目次

- *はじめに・鱈ヶ沢スキー場ゴンドラ通年営業を恐れる : 1
- *アンケートで「弘前公園有料化に反対」の意思表示を : 2
- *特別展「岩木山の野鳥たち」案内と出展依頼 : 2
- *第40回自然観察会の案内 : 3
- *「林野庁による国有天然林の破壊を告発する」署名用紙送付について : 3
- *2007年度総会の案内と議案について : 3
- *まだまだある山麓の巨大ゴミ・ホテル／レストラン施設「旅籠」の実態 : 6
- *「遺伝子組み換え植物の恐怖・自然保護の視点から考えるつどい」の報告 : 7
- *事務局から*編集後記 : 8

ある年の2月10日から11日に、ヴァリエーションルートである扇ノ金目山稜線を辿り、赤倉ピーク、蔵鬼山の肩、山頂、岳へと岩木山を北東から南西に縦断した。途中腰までの積雪で深いラッセル、ガリガリのクラスト、マイナス30℃以下の低温、40mを越える強風に遭った。そのため翌日は10時間以上の行動となり、顔面と首筋に凍傷をうけた。視界がほとんど利かない中、固い雪面を登る。時には軟雪の壁を雪崩の恐怖に苛まれながら、もがくように登る。ひとときの安息もない。行く手を阻む巨大な雪の塊はコメツガ林が作りだすモンスターたちだ。

凍える大気の中で西の天空だけが一瞬の薄明に覆われた。「天気は西か

ら回復する」という気象常識のフリーズが脳裏をかすめる。しかし、それは希望的観測に過ぎない。冬山の気象はそんなに甘くはない。すぐに白い闇と烈風に包まれた。蔵冬の岩木山はその気象を分刻みで豹変させる。

(扇ノ金目山稜線上部)

はじめに

Ⅱ 鱈ヶ沢スキー場ゴンドラの通年営業を恐れるⅡ

「1987年にオープンした森吉山の山岳スキー場建設をめぐって一番恐れていたことが現実化してきた。」そうである。それはゴンドラの通年営業である。「森吉山登山、とりわけ本峰の登山は、一年中、簡単に可能となり、山の荒廃は加速する一方である。森吉山本峰などは、もはや、まじめな登山の対象からはずれてしまった。森吉山に登ってきたといっても、フンと相手にされないほどである。」という記事を秋田県自然保護団体連合連絡報に見た。

そして、直ぐに鱈ヶ沢スキー場のゴンドラ運行に思いが巡った。スキー場はこれまで冬以外に「大館鳳鳴高校遭難遺族の慰霊祭」と「秋の紅葉観覧」のためにゴンドラを運行している。前者は許されるにしても、「慰霊祭のために善意の運行であるとの姿勢も、秋の紅葉観覧という営利に結びつける布石であったのではないかと思うのは考えすぎだろうか」；そもそもゴンドラ設置と運行はスキー客の搬送のためだけであつたはずである。許可の範囲もそれに限定されていたであろう。多数の客がある地点(標高960m)まで行くことが許可された物理的な条件は「数メートルの積雪」がある積雪期であり、積雪に保護されて地表の植生が踏み荒らしに遭わないという事実を元にしたものだ。しかし、積雪のない時季はこの条件には全くそぐわないだろう。

森吉山のように通年ゴンドラが運行し、観光客や登山者を運ぶようになったらどうなるか。岩木山にある五本の登山道の中でこの長平登山道が一番自然度が高い。言い換えるとそれほどにこの登山道を利用する登山客や登山者が少ないということだ。本会ではこの長平登山道の自然度を高いまま保護しようと数年来取り組んできた。今年度は「客観的」で「体系的」な

調査をより具体的に進めるつもりでいる。

それはなぜだろう。それは「鯨ヶ沢スキー場のゴンドラ通年運行」によつて、森吉山同様にあの自然度豊かな登山道は踏み荒らされ、荒廃が加速し、岩木山に登ってきたといつても、フンと相手にされないほどになることを恐れるからである。

ある県の事例だが、残雪の豊かな山域では、スノーモービル入山問題（静かな山域に爆音をまき散らす・野鳥の成長をさまたげる・貴重な樹木をなぎ倒す）に対して自然公園法にもとづく車馬規制とし罰則も加える方法をさぐつたそうだが、ただこうなるも国民に対して具体的に説明責任が生ずる。つまりスノーモービル入山者数、そのための被害の実地的なデータを示す必要がある。ところが行政にもこのデータがない。これでは規制ができないというのだ。

保護団体としても、行政に、つまり一般市民に理解を得る要望を提出するときは、それなりのデータを蓄積する努力が要求されるということである。これが調査の第二の理由である。

この連絡報によると秋田県では毎年自然保護課と県内の自然保護団体との話し合いが行われているという。今年には15団体が出席したと言う。青森県でもやっているのだろうか。やつていざとしたりら本会への主席の依頼がないのはどういふことなのか不思議である。

※囲いのない郷土精神形成の象徴である岩木山風景を取り戻すために、アンケートには有料化反対と書きましょう

囲いのない郷土精神形成の「岩木山」といふ風景を取り戻すために、本会では「弘前公園有料化」に基本的に反対していま

弘前市の公園有料化見直しのアンケートは「有料化」を継続してという立場でその質問項目がつかつています。多くの市民の関心がなぜ「無料」でないのかにあるはずなのに、それを引き出させて書き込む欄がありません。非常に片手落ちで恣意的なものですね。あと書き込む欄がありませんので、会員の皆さ

んはアンケート用紙の末尾の欄に「有料化には反対」とはつきり書きましょう。2月28日が閉めきりです。市役所やその他の出先機関で用紙はもらえます。

※特別展示・写真で見える「岩木山の野鳥たち」へのお誘いと出品展示の依頼

本会では毎秋、写真展「私の岩木山」を開催しております。各自が岩木山の素晴らしさや魅力を「私の岩木山」として写真に撮り、その「大切さ」を一般市民に知ってもらうために行つており、今年で14回目になります。この写真展「私の岩木山」では、主に外から見た遠景の岩木山風景等が多く、ふと懐かれて実感する「自然の豊かさ」はあまりアピールできずにいました。そこで、本会では岩木山に生きている動植物にスポットをあて、2005年3月には「ゼフィルス展（蝶々）」、2006年3月には「青森県のトンボ展」を行いました。そして、今年2007年は3月16、17、18日（金、土、日）に「岩木山の野鳥たち」を展示したいと考えています。是非ご来場のことと出品下さること、あわせてよろしくお願

開催日時： 2007年3月16、17、18日（金、土、日）

開始 午前10時 終了 午後5時

場所：

弘前市下白銀町21-6
NHK弘前放送会館内「NHKギャラリー」

目的：遠くから眺めるだけの岩木山でなく、実際に山の中に入つて実感できる自然、その一面を野鳥から触れてみることに。そして、「岩木山」にはたくさんの種類の野鳥が生息している、自然の多様性があり、この自然をいつまでも残そう……」をアピールすること。

展示内容と規模：岩木山に生息（留鳥、渡り鳥を問わない）している野鳥、岩木山で撮影された野鳥の写真。A4・六つ切りサイズ以上60枚。バードカービング数体。

出展についての注意事項：

1. 対象は岩木山および周辺に生息する野鳥で撮影地は問いません。しかし写真のバックに海や岩木山には自生しない植物等が写しこまれているなど岩木山らしくない写真はご遠慮願います。
2. 大きさはA4・六つ切りサイズ以上で、額をお持ちでない方には当会が準備します。(六つ切り・A4) またLサイズの方には当会が準備します。(六つ切り・A4) またLサイズの方には当会が準備します。(六つ切り・A4)
3. A4サイズにプリント・額入れいたします。出品数はお一人3〜7点でお願いいたします。できるだけ多くの方々に出品していただきたく思っています。(出品依頼者：10数名・目標枚数は約60枚少ない場合は会員の菊地と飛鳥で調整する。)
4. 写真の説明文には、種名・科名・大きさ・どのような環境に生息しているか・撮影者など一般的表記のみとなります。

数多くの種を展示したいと考えております。重複を避けるため、後日電話で出品予定の種名をお伺いいたしますのでリストアップをお願いいたします。重複があった場合には相談の上、決めさせていただきます。なお、写真に関わる不明な点は飛鳥和弘へ夜(32・0645)。それ以外のことは本会事務局三浦章男へ(35・6819)。

- ・出品が少ない場合は本会が所有している野鳥ライブラリー(フアイル)から選び、スキヤンしてA4プリントする。
- ・展示場ではCDを使って野鳥の声を流す。(NHKギャラリ―とすでに契約済み)

※「第40回自然観察会」の案内

※実施日：5月13日(日)場所：(岩木山東麓後長根沢沿い)

※主題：(1)スプリングエフェメラルズを見て森の仕組みを知る(2)樹木と林床(3)春の野鳥

※日程：(当日の天気によって変更もある)

↓9:00 集合(場所・百沢駐車場「岩木山神社前を岳方向に100mの左側」)いったんここに集合してから更に車で移動する。
↓13:30 閉会・解散

※参加費：500円(保険代・写真代)※申込・問い合わせ先・申込期間5月2日から10日まで※電話で事務局、弘前市田町4-12-7三浦章男あてに ※0172-35-6819※

※「林野庁による国有天然林破壊を告発する」という署名用紙を同封しました。

「日本の天然林を救う全国連絡会議」の河野昭一京大名誉教授、弘前大学名誉教授正木前会長からも案内がありました。幹事会では会を挙げて取り組むことが確認されました。3月31日まで用紙に記載されている宛先に各自送付下さい。よろしくお願ひします。

・岩木山を考える会2007年度総会案内

日時：4月14日(土) 15時から18時まで
場所：弘前市参画センター(弘前市桜大通り・交番となり)

多くの会員の出席をお願いします。お友達などを誘って参加されてもかまいません。総会終了後に懇親会も予定しています。なお、懇親会参加希望者は4月10日までに事務局(35・6819)三浦あてに連絡下さい。

活動方針(案)

1. 岩木山の自然破壊の監視、阻止、および山岳自然の保護と再生をめざし調査と情報の蒐集につとめる。
1. 重点的に「長平(鱈ヶ沢)の種蒔苗代」(岩木山唯一の高層湿原)調査を今年度から始める。
2. 林野庁(入会権行使の部落林管理)による伐採が続いているのでその動向に注意する。
3. 登山道だけでなく山麓から山腹に延びている林道沿いの調査も実施する。
4. 鱈ヶ沢スキー場の動向には注意する。
5. これまで蒐集した動植物の資料・情報を整理する。

2、「弘前市」が岩木山に対する自然保護行政に積極的に関与すること」を継続する。これまで「岩木町と協力しながら取り組むこと」を継続する。

1、囲いのない郷土精神形成の「岩木山」という風景を取り戻すために、弘前公園有料化には基本的に反対する。またそのための意見を集約し提唱する。

2、「岩木山弥生地区自然体験型拠点施設」建設跡地には森林が回復するように運動をすすめる。

3、巨大ゴミ・廃墟と化したホテル「巖鬼山温泉・スペース21」と「旅籠」撤去の行政指導を要求する。

3、弘前市役所岩木総合支所商工観光課・建設課等との連携を密にする

1、ミズバショウ沼農村公園を自然観察の場所として積極的にトレイルセンターと連携させながら活用する。また自主的に整備に取り組み、自然観察会などに会員が出向いて解説や指導等にあたる。岩木山環境保全協議会との連携を密にする。

2、毎年7月第一日曜日に実施されている岩木山清掃登山に参加する。

4、NHK弘前文化センター講座『津軽富士・岩木山』を昨年に引き続き出来るだけ開設する

※NHK文化センター講座の案内※
受講参加希望の方はNHK文化センターに申し込んで下さい。三ヶ月単位での入会となります。詳しくは同センターにおたずね下さい。

・第23回 2月25日 (担当：阿部 東)

主題： 岩木山の自然。(座講)

・第24回 3月25日 (担当：三浦章男ほか)

主題： 岩木山の自然「野外観察・弥生跡地」(野外観察)

・第25回 4月27日 (担当：阿部 東)

主題： 岩木山の自然 (座講)

岩木山の自然を中心に、人工物等によって生き物(ほ乳類や昆虫)がどのような状態に追い込まれているかを学習する。

・第26回 5月20日 (担当：阿部・三浦ほか)

主題： 岩木山の寄生火山・森山をたずねる(野外観察と実習)
岩木山の寄生火山の簡単な構造について理解し、春の植物に親しむ。

・第27回 6月24日 (担当：阿部・三浦ほか)

主題： 岩木山北面石神社とその周囲(野外観察と実習)
初夏のブナ林と民間信仰の「石神様」をたずね、ブナ林とその植生、石神様の由来を学習する。

2006年1月から今年1月までの実績

小杉沢の湧水



第10回 岩木山と人々の生活 (担当：小山隆秀)

信仰 第11回 岩木山と人々の生活 (担当：岩木山と農耕)

第12回 岩木山の雪上自然観察 (野外実習と観察) (担当：佐藤竹郎)

第13回 岩木山の信仰(表の信仰) (野外実習と観察) (担当：阿部・三浦ほか)

第14回 岩木山で白神山地の花を見る(野外実習と観察) (担当：阿部・三浦ほか)

第15回 岩木山と信仰・模範岩木山 (担当：模範岩木山)

第16回 岩木山湯ノ沢・特異な景観 (野外実習と観察) (担当：阿部・三浦ほか)

第17回 岩木山の伏流水(湧き水) (野外実習と観察) (担当：阿部・三浦ほか)

第18回 岩木山の石仏を赤倉登山道に訪ねる (担当：阿部・三浦ほか)

第19回 岩木山のすみれ(厳選!25種) (担当：三浦章男)

第20回 岩木山の蘭 (担当：三浦章男)

第21回 厳選!岩木山の高山植物(温暖化と高山植物) (担当：三浦章男)

第22回 厳冬の岩木山をカラー写真で (担当：三浦章男)

5、写真展「私の岩木山」を市民参加型の写真展と位置づけて開催する

・第14回写真展「私の岩木山」は9月14日(金)〜9月16日(日)にNHK弘前放送会館ギャラリーで開催する。

1. 来場者500名を目指す。出展者を出来るだけ多くし、多数のさまざまな視点からの作品を「多くの人々に開かれた写真展」という趣旨を継続し展示する。
2. この数年展示内容が平板になりがちだったので特設コーナーを設定したい。プロジェクト使用や出展写真搬入等に関しては臨機応変に対処する。

NHK講座小杉沢湧水観察に参加したみなさん



※主 題:(1)スプリングエフェメラルズを知る(2)樹木と林床(3)春の野鳥

6、「東北自然保護の集い」に多数参加する

・岩手県が主管となり11月を予定している。10名を越える会員の参加を希望する。参加希望者は事務局に連絡をしてほしい。参加費の大部分を負担する方向で検討したい。

7、市民参加型の自然観察会とする

・春・夏または秋・残雪期に会員と一般参加者を募り、年3回の実施を考

察会第40回自然観察会の案内

※実施日:5月13日(日)場所:岩木山

※主 題:(1)スプリングエフェメラルズを見て森の仕組み

8、これからの自然保護運動は市民(農民や消費者を含む)運動と深く連携し、行政と向き合っていくことが大切である。宣伝と啓蒙を含みながら他団体(自然保護・平和・市民生活・農村と農民)との連携を密にしていこう。

1. マスコミに会報を発行の都度、送付する。

2. 諸催事や活動を事前にマスコミに発表し、報道・文化機関や行政の後援を出来るだけ得る。

3. 岩木山に関わる観察会、講演会、登山等に講師、その他を派遣する。ただし、営利的なことには派遣しない。

4. 「日本の天然林を救う全国連絡会議」に参加して林野庁による国有天然林破壊を告発する。

9、ホームページ「岩木山を考える会」の充実

ホームページを「インターネット岩木山総合学習センター」と本会の活動・運動・意思等の発表、発信の場と位置づけて内容の充実を図る。幹事の中でPCを扱える人が2名しかない。記事の更新には、現在管理人である葛西幹事と事務局長が当たっている。しかも葛西幹事は超多忙で更新業務もままならない状況が続いている。よってホームページの技術的担当が可能な要員を増やすことが緊急の課題である。2月10日現在でアクセス数は41,100を越えて、社会からの本会ホームページに対する期待はますます強まっていく。2月10日現在で事務局に送付される情報を写真・文章ともインターネットで事務局に送付されることを望む。

10、幹事会と事務局の機能的な充実をはかりながら会員の拡大につとめる

1. 幹事と事務局員の私的都合を勘案し、辞退を認めながら増員の方向で、各担当を明確にする。
2. 写真展、観察会、講演会、シンポジウム等で関わりを持つた市民を大切にすること。
3. 会員は積極的に観察会等に参加して、一般の方々への入会案内をする。

岩木山の現場から

まだまだある山麓の巨大ゴミ!まさに幽霊屋

敷・廃屋のホテル「巖鬼山温泉・スペース21」の

近くに……



懸念される。
ここの建造物は「スペース21」よりも高さはない。しかし、敷地面積は「スペース21」より広い。その付属施設である枯山水的な庭園や四阿（あずまや）、それに物置的な建物、何に使用したのか不明の建造物が、いまだ朽ち果てることもなく点在している。扉類には旅籠の文字、鬱蒼とした庭園内



これは、弘前市に「放置された建造物」が「どこ」から指摘されず、うち捨てられていること。場所は現在、弘前市百沢字東岩木山である。「スペース21」とあわせてこの事実を弘前市は把握しているのだ。



このように「放置された建造物」が「どこ」から指摘されず、うち捨てられていること。場所は現在、弘前市百沢字東岩木山である。「スペース21」とあわせてこの事実を弘前市は把握しているのだ。

る。この現場写真もホームページで公開する。この場所が「個人所有地」であつたとしても、このままだと「不法投棄のゴミ」に等しい。許されることではないだろう。ましてや、現場が国有林地内で林野庁からの借地であつたとしたらなおさらである。それにしても、すでに山麓には「弘前市」をはじめとして多数の自治体のゴミ捨て場が存在する。いずれにせよ、弘前市民は誰一人として岩木山がこれ以上の「ゴミ捨て場」になることは望まない。もうこれ以上どのような理由にせよ岩木山にゴミ捨て場は不要だ。

弘前市、青森県自然保護課、森林管理署も本気になって「スベース21」とあわせて「旅籠」撤去に動いて欲しいものだ。今年度も活動方針に掲げ、総会では「巨大ゴミ・廃墟のホテ

ル」がどうなっていくのかを監視し、行政等に訴えて行くという議論がなされるのである。

「遺伝子組み換え植物の恐怖」自然保護の視点から考えるつとどい報告

「遺伝子組み換えの恐怖・食の未来」の上映会と交流会には60人が参加して、こちらとしては大成功でした。自然環境保護団体の「岩木山を考える会」が「自然保護の目的は在来種・生態系を守る事だ」と位置づけて、積極的に賛同・宣伝してくださり、その会員がたくさん参加したほか、生協関係者、生産者、学生、退職教員、元農水省職員など多彩な顔ぶれでした。上映後、手作りの鰯の鍋料理、鰯のフライ、卵料理、おにぎりを食べながら感想を話し合いました。

「みんな大丈夫だと言うときに、時流に流されず、あれちよつとおかしいな、と思う感覚が大切だ。」生協でも昔はずいぶん遺伝子組み換え食品のことを勉強したけど、最近はどうなったんだらうか? 「多品目を作りたい。」と、最近はどうなえ食品を食べないように伝えたい。」などの感想が出されたほか、種子の支配をもくろむ多国籍企業にたいしては「怖い」と思った。」という感想が多数出されました。

以下に、感想文を紹介します。

学生 女性

私は弘前大学農学生命科学部の4年生ですが、弘大でもバイオテクノロジーの授業をやっていますが、そこでの授業では教授が「GM(遺伝子組み換え)は食糧問題を解決できる」「GM食品での健康被害は今のところない」とGM賛成的な意見を述べていました。自分でもよく考えてみれば分かることでした。モンサント社のお偉いさん達は日常何を食べているのでしょうか、聞きたくなります。自分で考え、購買していこうと思いました。

(以上津軽農民組合事務局発信メールから)

「遺伝子組み換えの恐怖・食の未来」上映会と交流会の報告はこれに替えます。なお、本会でも独自に今後「遺伝子組み換えの恐怖・食の未来」上映会と交流会を市民を交えた形で実施していきたいと考えています。

会報でも「遺伝子組み換えの恐怖」について分かりやすく解説をしていく予定です。本HPにも転載いたします。

事務局から

※最近本会に対して「営利目的のガイドや講演」をしているという風評があるそうです。本会では営利目的のガイドや研修、講演などはしていません。ただし、教育目的な「自然観察会」(たとえば子ども会育成事業)などへの協力はしています。

※第14回写真展「私の岩木山」は9月14、16日・NHKギャラリ

※岩木山清掃登山(岩木山クリーン作戦)は7月第一日曜日に実施されます。大勢の参加をお願いします。

※8月上旬に岩木山百沢登山道整備(刈り払い)を岩木山神社と一緒に実施します。

皆さんお忘れなく、予定表に書き込んでおいて下さい。

庶務報告(活動日誌)

8月21日以降は総会時に経過報告の中で報告します。

六月

*28・会報第39号元刷り原稿を県内出版に持ち込む。幹事に会報発送事務依頼のハガキを出す。「三浦」

*29・弥生ネット幹事会。会費納入用郵便振替用紙に記載事項印刷。・弘前勤労者山岳会役員に岩木山クリーン作戦参加依頼のハガキ発送。「三浦」

*30・会報発送用封筒宛名印刷(350枚)。・会報送付添付のマスコミ宛文書の作成。・「東北自然保護の集い」参加費納入用振替用紙の発注と印刷。・「東北自然保護の集い」開催要項最終仕上げと印刷(A4版2枚200組)。・タウン誌「弘前」青木編集長当該誌を持参する。「三浦」七月

*01・会報発送事務。「竹谷・工藤・斉藤・三浦りえ・三浦」・「東北自然保護の集い」送付用あすなろ庄パンフレット不足分収受。「斉藤」・「東北自然保護の集い」各団体、個人宛封筒宛名印刷。・「東北自然保護の集い」開催挨拶文の作成と印刷(A4版200枚)。「三浦」

*02・「東北自然保護の集い」実行委員会開催案内作成と印刷(A4版50枚)・青森県内団体と個人あて。・「青森の自然を守る連絡会議」田中洋一氏へ発送に關する最終連絡。・「東北自然保護の集い」開催要項、その他関係文書発送事務(封筒詰め等)完了。「三浦」

- *03・「東北自然保護の集い」開催要項等その他関係文書発送。「三浦」
- *08・コマクサの確認と岩木山各登山道の調査。「工藤・斉藤・三浦」
- *10・仮称「岩木山神仏融合フェスティバル」構想についてNHK弘前文化センターから参画を依頼されて打ち合わせ会に出席する。「三浦」
- *12・青森県「あおもり水辺の郷」事業としてミスバショウ沼が選定されたことの連絡とそのための会議の案内を受ける。「三浦」
- *15・「つがる市教育委員会子供会育成事業・岩木山登山と自然観察」案内・解説・指導にあたる。「工藤・三浦」
- *16・「06年度岩木山クリーン作戦」参加者「清野・工藤・斉藤・竹谷・阿部」三浦りえ・小田切・三浦」
- *17・「06年度岩木山クリーン作戦」参加者「清野・工藤・斉藤・竹谷・阿部」三浦りえ・小田切・三浦」
- *18・NHK弘前文化センターから実地観察のことについて問い合わせ。青森県「あおもり水辺の郷」事業協議会発足会議、県農村計画課長、同主査、市岩木支庁商工観光課、常磐野町会長が参加。「三浦」
- *19・NHK弘前文化センターへ。講座新受講者と実地観察。「三浦」
- *20・NHK弘前文化センター講座「湯の沢実地観察」の事前調査と案内道の整備。「竹谷・三浦」・弥生ネット幹事会参加。「三浦」タウン誌「弘前」表紙写真収受。「飛鳥」岩木山トレイルセンター写真展示のことで木村氏に連絡。「三浦」
- *21・東北自然保護の集い県実行委員会会議資料とNHK弘前文化センター講座「湯の沢実地観察」のパンフレット作成。「三浦」
- *22・東北自然保護の集い県実行委員会、青森市。「斉藤・阿部・三浦」
- *23・NHK弘前文化センター講座「湯の沢実地観察」19名参加。「阿部・竹谷・斉藤・三浦」・会員奈良岡豊氏八甲田山寒水沢遡行中事故死。
- *24・「弥生ネット」から弘前市長に提案するいわゆる「弥生問題」に対する提案書内容の添削文を事務局に送付する。・奈良岡豊氏宅弔問。・青森県「あおもり水辺の郷」事業協議会のことで岩木支庁に問い合わせる。「三浦」
- *25・弥生跡地問題訴訟公判のため青森地裁に出向く。「阿部・三浦」
- *26・27・「若竹の会」岩木山登山研修の講師として参加。「工藤・阿部・三浦」
- *27・岩木山「コマクサ」の状態確認（3回目）「工藤・阿部・三浦」
- *28・「弥生ネット」弘前市長宛提案文書の取り扱いについての意見を事務局に送付する。岩木山トレイルセンター展示写真の入れ替え・木村忠義氏の作品展示。「三浦」
- *29・日本山岳会青森支部長・下山氏から当日ブナ植林事業と重なって「東北自然保護の集い」には参加できない旨の連絡がある。「三浦」八月
- *02・青森県「あおもり水辺の郷」事業について常盤野町会が本会と協議会を組織したくないとの意向である。よって外れてほしい旨の連絡

- が県からあった。・「弥生ネット」幹事会に出席。「三浦」
- *04・「東北自然保護の集い」赤石川を守る会から問い合わせ。「三浦」
- *06・「東北自然保護の集い」宮城・仲居氏からの問い合わせ。「三浦」
- *09・「東北自然保護の集い」八甲田・十和田を愛する会「代表久末正明氏から「南八甲田山無断伐採」について報告したい旨の問い合わせ。「三浦」
- *12・「東北自然保護の集い」白神山地を守る会・永井雄人氏から報告について問い合わせ。「三浦」
- *15・「東北自然保護の集い」赤石川を守る会から問い合わせ。「三浦」
- *16・「弥生ネット」幹事会に提案する自然体験型施設予定地跡地の観察会実施計画の作成。「三浦」
- *17・「弥生ネット」幹事会に出席。・岩木山神社から百沢登山道刈り払い日程の連絡。直近のことなので関係者に電話。「三浦」
- *18・自然体験型施設予定地跡地の観察会実施パンフレット持参で掲載依頼に東奥日報・陸奥新報に出向く。「三浦」
- *19・NHK弘前文化センター講座講義のための資料の作成と下調べ。「三浦」
- *20・岩木山神社による百沢登山道刈り払いに参加。「阿部・斉藤」・NHK弘前文化センター講座（座講）「津軽富士・岩木山」（赤倉登山道に石仏を訪ねて）16名参加。「三浦」

編集後記

・弥生ネットの昨年最後の幹事会で「今後のあり方」について検討した結果「弥生跡地」に関わる問題は行政訴訟では「敗訴」だが裁判所が述べた「訴訟の過程」では「弘前市」に真摯に反省を求めるなど、また市長が代わり私たちが要求したように政策の変更がなされ一応成果を見た結論づけた。よって「弥生ネット」はしばらく「休止」することにした。

ところが、先日陸奥新報によると「弥生跡地、弘前市と弘前大学と共同研究をしながら方向性を決めていく方針」とあるではないか。これだと市民の声を聞く前にレールを敷いてしまう以前の市政（姿勢・施政）と何ら変わらぬ「市井（しせい）」の政策とはならないのでは？と首をかしげてしまった。休止なんかしていられそうにない気配濃厚だ。（以上M）

会報「岩木山を考える」第四十一号（二〇〇七年二月十日発行）発行・岩木山を考える会・会長 阿部東・事務局長 三浦章男・事務局 〒〇三六・八〇五・四・弘前市田町四一・二一七
TEL 〇一七二・二五・六八・九 *郵便振込口座番号 〇二三・八〇一
〇一三七九・一四 *振り込み先 岩木山を考える会